



医療・福祉から期待高まる

公開シンポ「いま知りたい、臨床宗教師」

北海道東北臨床宗教師 いた。約200人が来
会と東北実践宗教学寄 場。医療や福祉関係者の
附講座は昨年12月6日、 姿もあり、期待の高まり
東北大川内キャンパス を感じた。
(仙台市青葉区)で公開 同会は、2014年12
シンポジウム「いま知り 月に北海道・東北地域在
たい、臨床宗教師」を開 住の臨床宗教師研修了

臨床宗教師が活
動を語った

生によって発足。シンポ
ジウムは、臨床宗教師を
多くの人に知ってもらう

とともに、終末期患者や 挨拶し、臨床宗教師はこ
被災者らの心に寄り添う れからの超高齢多死社会
活動を振り返り、今後の に役に立てる存在である
可能性を探る目的で開か と主張した。
鈴木岩弓・同大教授が 谷山洋三・同大准教授
が基調講演。臨床宗教師

とは、宗教間協力を前提 臨床宗教師を活用するな
に布教伝道を目的とせ ど、行政との連携も進ん
ず、信徒以外からの相談 ている▽地域包括ケアに
に応じるとして、教え導 おける資源として宗教施
く在り方から寄り添いへ 設や人的ネットワークを
とマインドセットを交換 必要に応じ活用でき、そ
でる宗教者のことだと 紹介した。
谷山准教授は▽各地の 大学でも養成講座が開設
され、また医療・福祉施 設で受け入れが始まった
▽京都府では自死対策に

——などと話した。

続いて地元紙の連載特 集「挽歌の宛先 祈りと
震災」で取り上げられた 宮城県内の臨床宗教師4
人が現在の活動を語っ

た。また連載の担当記者 が取材で感じたことなど
を話し、これまで限定的

なつたと指摘した。

鈴木聡・石巻赤十字病 院副院長は「いまの病院
は患者の思いの宛て先は なっていない」とし、
先輩であり臨床宗教師の 生みの親である故岡部健
医師の「患者は治療だけ では治らない」という言
葉を振り返り、医療者と 宗教者が手を携えて死を
迎える患者さんを見てい けるような病院にしてい
きたいと語った。

だった宗教の役割が、臨 床宗教師の現れにより社
会的資源としての選択に 長、臨床宗教師)

通信員だより